

# 松本純弥室長が日本うつ病学会 下田光造賞を受賞しました！

下田光造[1885-1978]は、躁うつ病の病前性格として「執着気質」を見出しました。Shimoda's Shuchaku-KishituあるいはImmobilithymieとして国際的に引用されます。下田光造賞は、気分障害の医学の進歩に最も貢献した、賞の名にふさわしい研究論文を執筆した筆頭著者に授与されます。

**受賞論文** 「Cerebral cortical structural alteration patterns across four major psychiatric disorders in 5549 individuals」 *Molecular Psychiatry*, 28(11), 4915-4923, 2023

多施設共同研究で5549症例の脳MRIを用いてうつ病と双極症の気分障害を含む4大精神疾患について大脳皮質構造を疾患横断的に解析した論文です。うつ病と双極症とでは大脳皮質厚の菲薄化が統合失調症とも共通して認められ、大脳皮質の68の関心領域別の菲薄化パターンが類似していることが示されました。大脳皮質表面積ではうつ病・統合失調症で小さいものの、双極症では有意差がないという構造上の差異があり、関心領域別のパターンではうつ病・

統合失調症・自閉スペクトラム症で類似していることが示されました。このような皮質厚・表面積といった構造によって異なる結果は、気分障害等の精神疾患間の生物学的病態の類似点や相違点を反映している可能性が考えられました。



第21回日本うつ病学会総会で授賞式・受賞講演がありました

